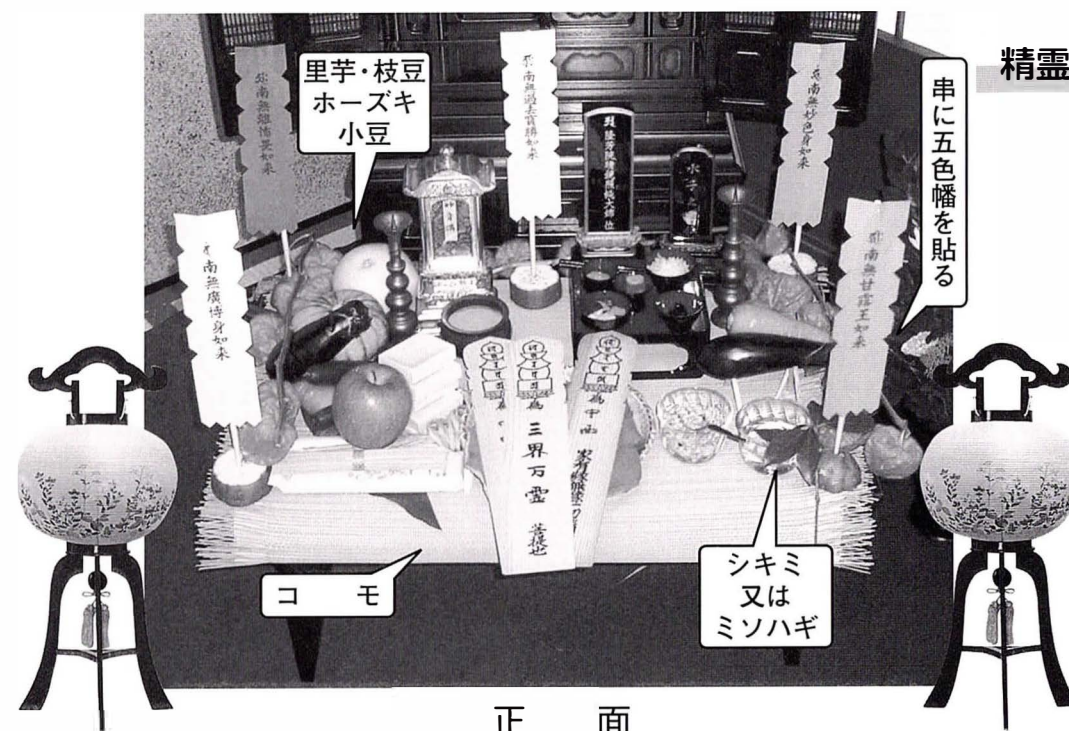


精霊棚のまつり方

精靈棚



正 面



側 面



お盆関連商品をはじめ提灯等もございますので、お気軽にお問い合わせ下さいませ。


 ぶっだんの原
 株式会社 原三松堂

茨木店 | <店舗横に駐車場完備>

大阪府茨木市大同町2-23

電話 072 (637) 6385

はらホール茨木

検索

精霊棚（盆棚・魂棚・先祖棚・玉棚ともいいます）は、むかしは仏壇を利用せず、どの家でも庭先や座敷に作って飾り、祖霊をお迎えるための特別な祭壇でした。ふつうは十日の朝に作りますが、新盆の家ではぐっと早く、一日から七日までに作るころが多くあります。

精霊棚の作り方は、ごく簡単です。木や竹などを組んで左右に骨組を作り（小さな机を）代用、そこに盆花（みそはぎ・ききょう・おみなえし・ゆり・なでしこ・ほおずき等）を飾りつけ、十六ささげ（さやの付いたままの豆）を下げます。棚には蓮の葉の上に新鮮な野菜（ナスやキュウリ）を供えます。また真菰まごもや筵むしろを敷いてその上に野菜を供えるところも多いようです。そうめんや果物を供える例も一般的ですが、ほおずきの他にはまなすなど赤い実を飾る風習もあります。

とくに大事なものは 水です。水を入れた器と、ナスやキュウリを細かく刻んで洗米とまぜたもの（切子）の器を供えます。お参りの人は、切子をスプーンで蓮の葉の上にそなえ、水をみそはぎの小枝・シキミなどでそそぎかけて拝みます。

仏壇から位牌を 精霊棚に移します。仏壇は空になるので、これを空棚といいますが、そこには留守居の精霊が残っているといわれ、お留守居様ともいいます。もちろんこちらにもお供え物をします。

初めて迎えるお盆のことを 新盆（初盆）といいます。新盆の精霊棚は特別に大きく作ります。木を組んだお堂の形のもものもあります。心をつくして丁寧にこしらえるものです。近畿地方では新盆の精霊棚を「荒棚」あらだなといいます。新盆見舞といわれるとおり、縁のある人は訪問するのが礼になつています。また、盆提灯を飾つて御先祖様をお迎へします。